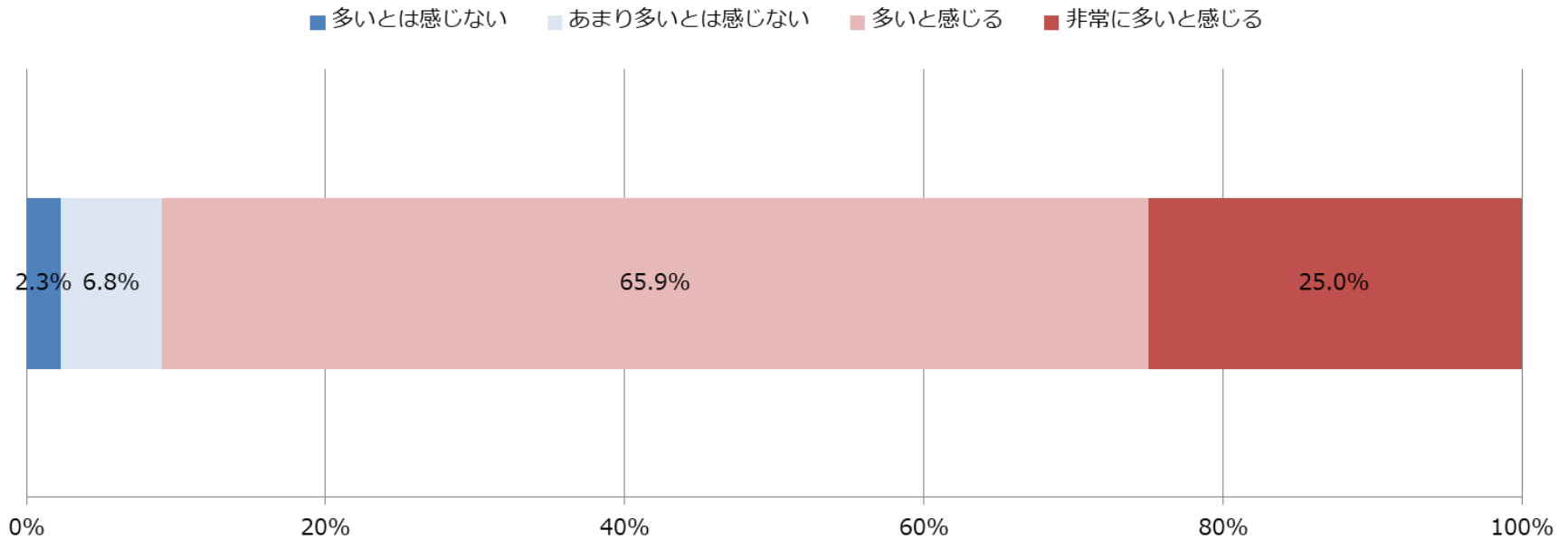


「観点別評価」の取り組み状況に関するアンケート 集計まとめ

- ・実施期間 2023年5月15日～22日
- ・対象 私立中高の先生方
- ・回答方法 Web、アンケート用紙
- ・有効回答数 44校

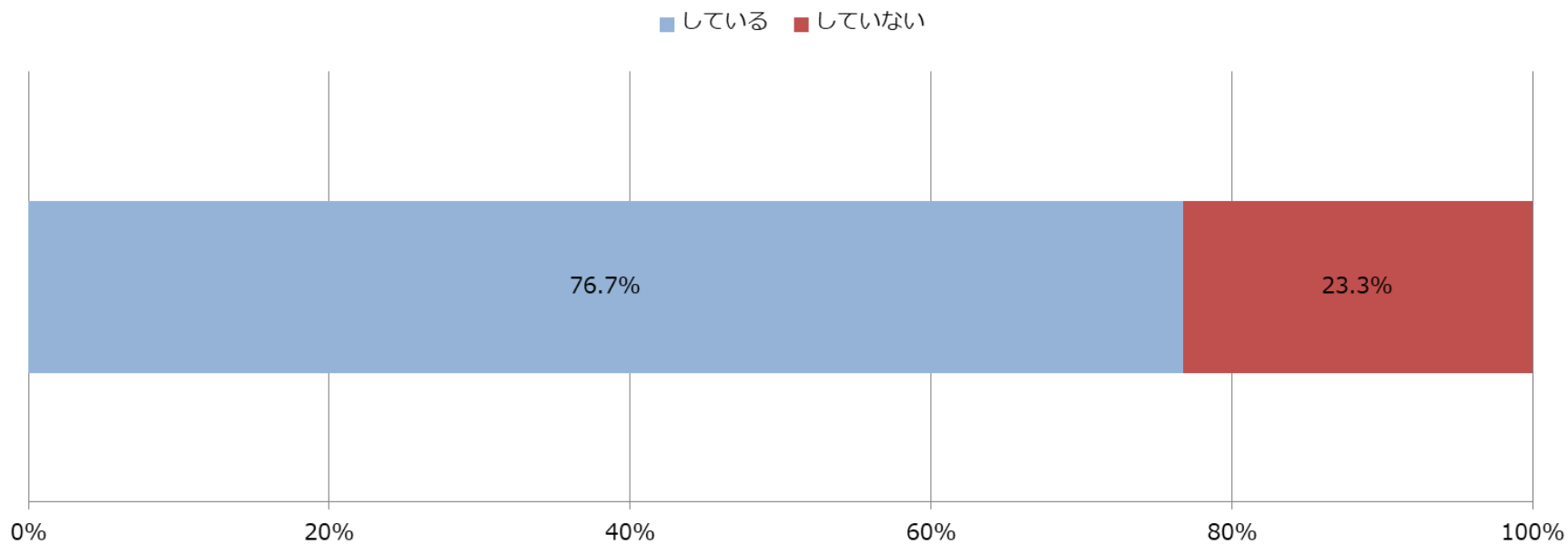


Q1 観点別評価に係る業務量が多いと感じますか



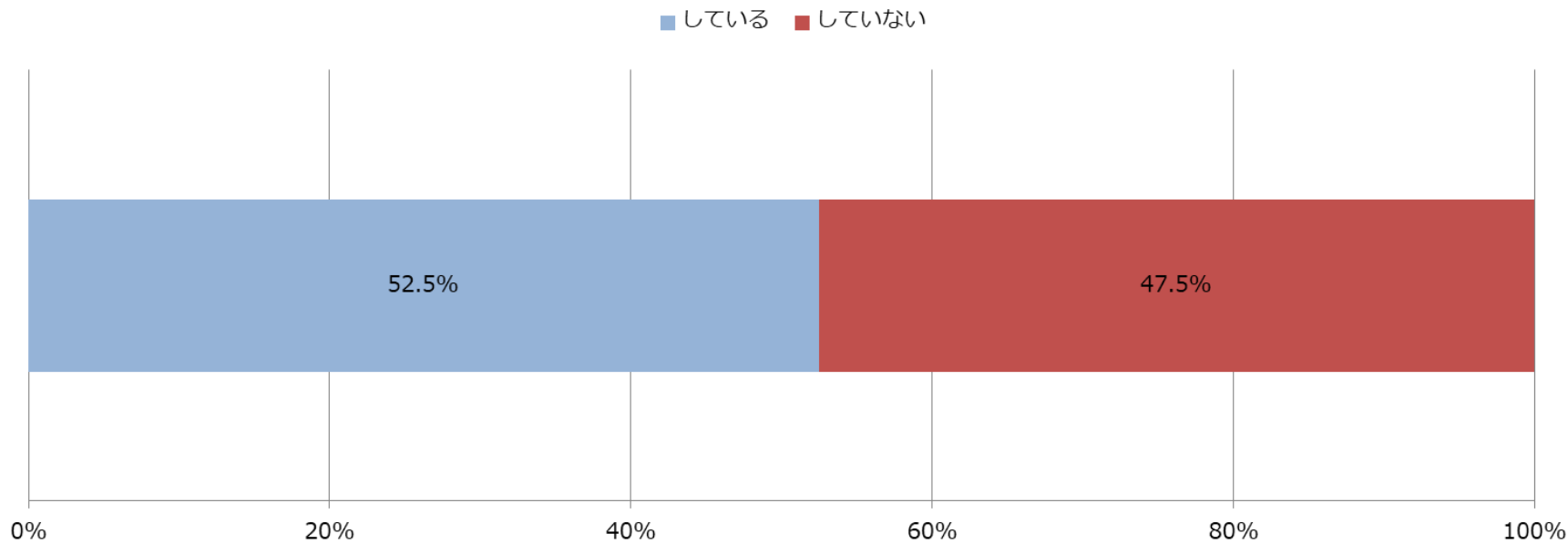
- ・「多いと感じる」「非常に多いと感じる」で計90%という回答だった
- ・特に高校においては観点別評価の導入が新たな取り組みであるため、業務の負担感は大々くなっているのが現状といえる

Q2S1 評価規準の設定についてお聞きします 各教科で教科としての評価規準を設定していますか



- ・「評価規準」について、「教科としての評価規準を定めている」が約8割だった

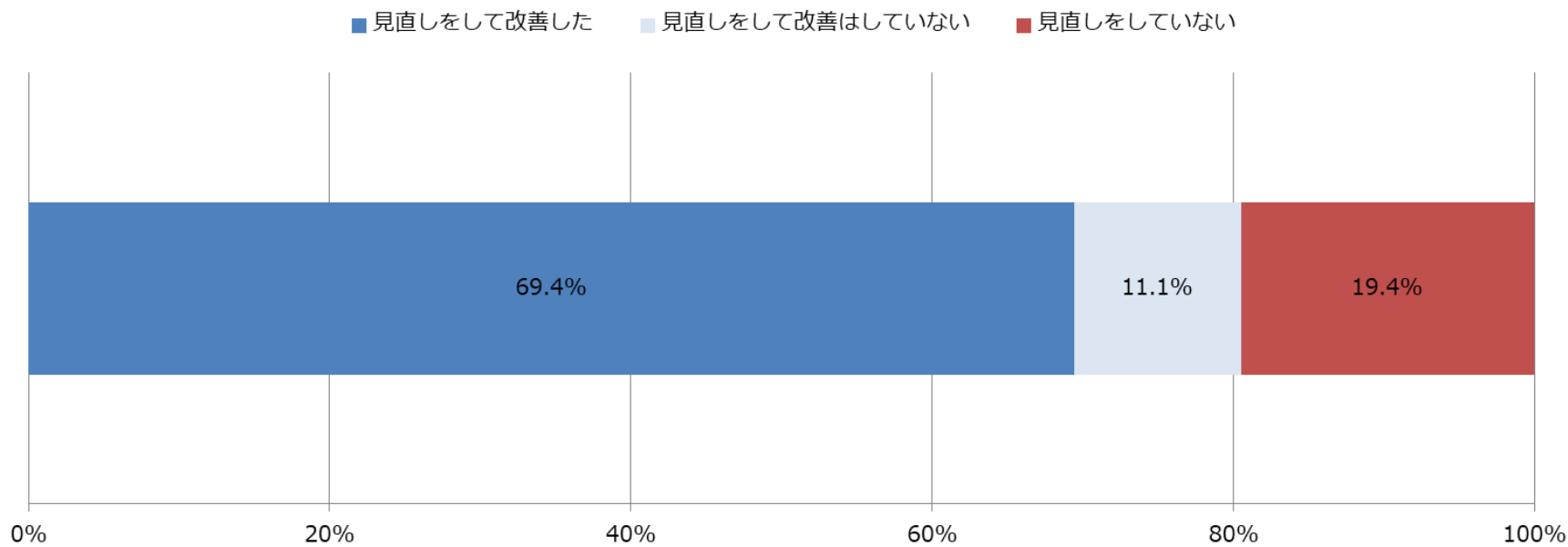
Q2S2 評価規準の設定についてお聞きします 単元や内容のまとまりごとに評価規準を設定していますか



・「評価規準」について、「単元や内容のまとまりごとの評価規準を定めている」という回答は、約半数にとどまった

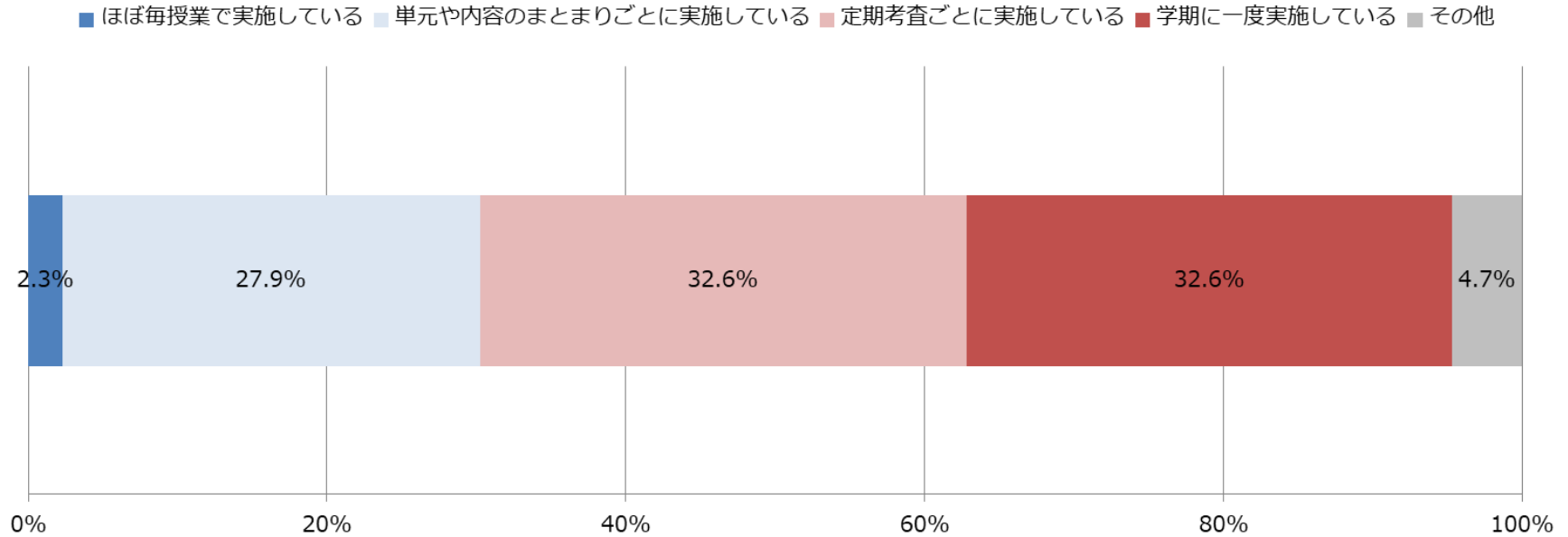
・Q2S1では、「教科として評価基準を定めている」が約8割であり、評価規準の設定については、単元や内容のまとまりごとには設定せず教科単位という学校が大半であった

Q3 評価規準の改善について： 当初作成した評価規準の見直しはしましたか



- ・Q2の2つの質問のいずれかにおいて「評価規準を設定している」と回答した層に対し、「評価規準の見直し」についてきいた
- ・「評価基準を見直し、改善している」回答は約7割だった
- ・評価を実施するごとにブラッシュアップしようという姿勢が垣間見える

Q4 学習状況の評価の頻度について： どのくらいの頻度で生徒の学習状況の評価を実施していますか

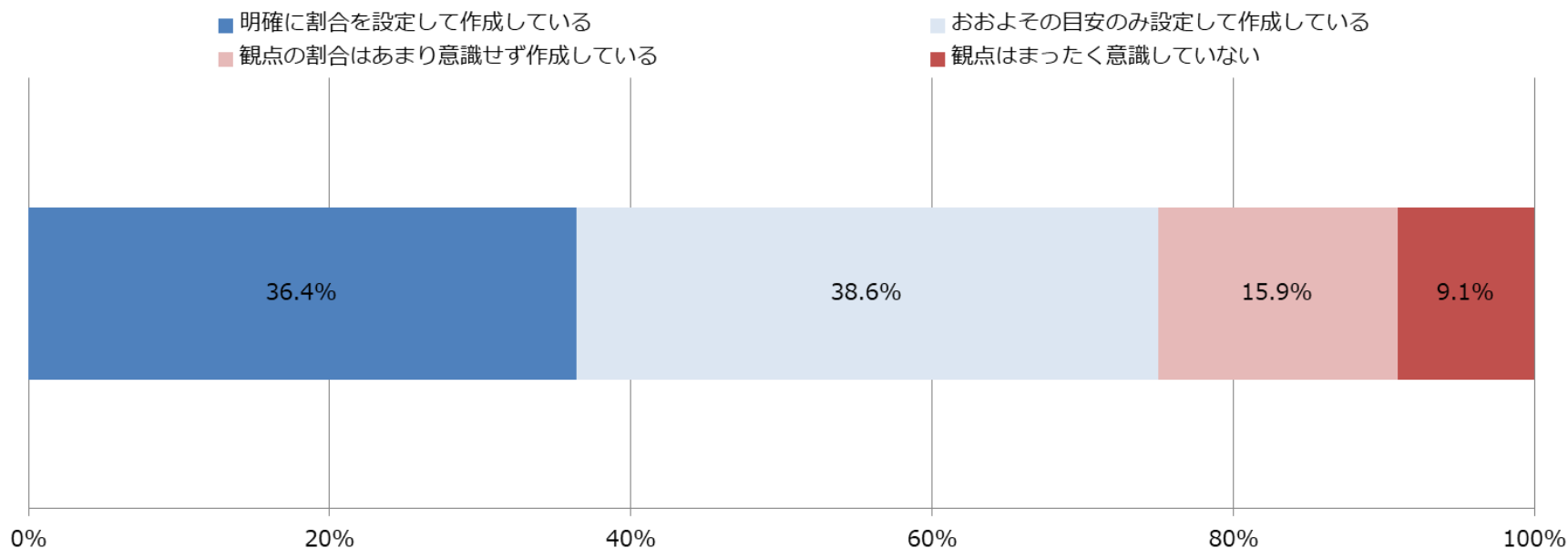


その他の回答
・教科・科目ごとに異なる
・年度末に実施

・「評価の頻度」については、「単元や内容のまとまりごと」「定期考査ごと」「学期に一度」の選択肢がほぼ同数と、回答が割れる結果となった

Q5 定期考査における作問について：

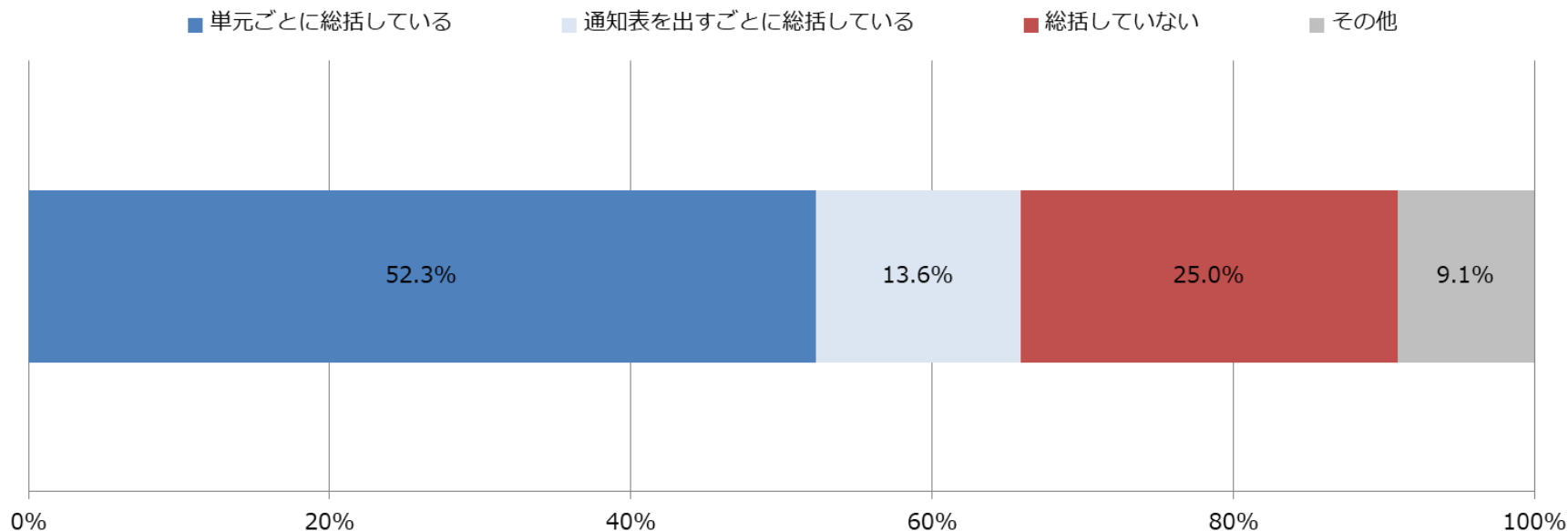
定期考査において観点の割合を意識して考査問題を作成していますか



・「定期考査の作問における観点の意識」については、「おおよその目安を設定して作問」、「明確に割合を設定して作問」の順に回答が多く、あわせて75%ほどとなった

・定期考査の作問において、観点のある程度意識して作問していることが分かる

Q6 観点別学習状況の評価の総括について： 観点別学習状況の評価の総括はどのような頻度で実施していますか



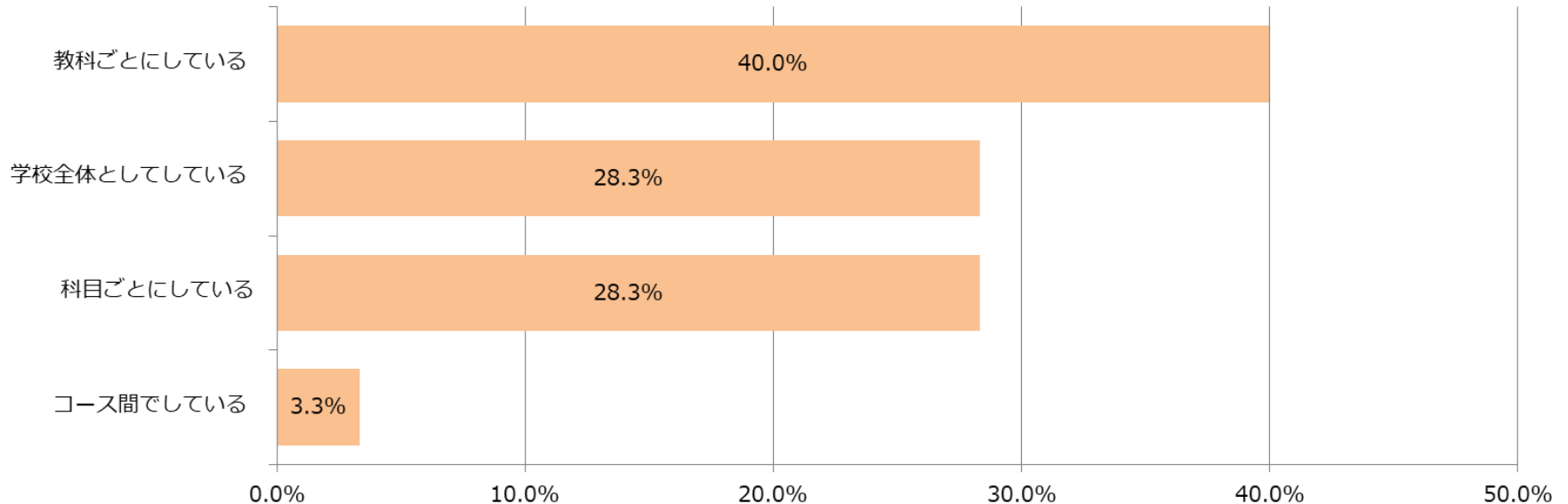
その他の回答

- ・ 中学と昨年度高1のみ学年末に総括した。
- ・ 年度末に総括する
- ・ 今は教科内で総括している。
- ・ 学年末

・「観点別評価の総括」については、「単元ごと」の回答が約半数となる一方、4分の1は「総括していない」

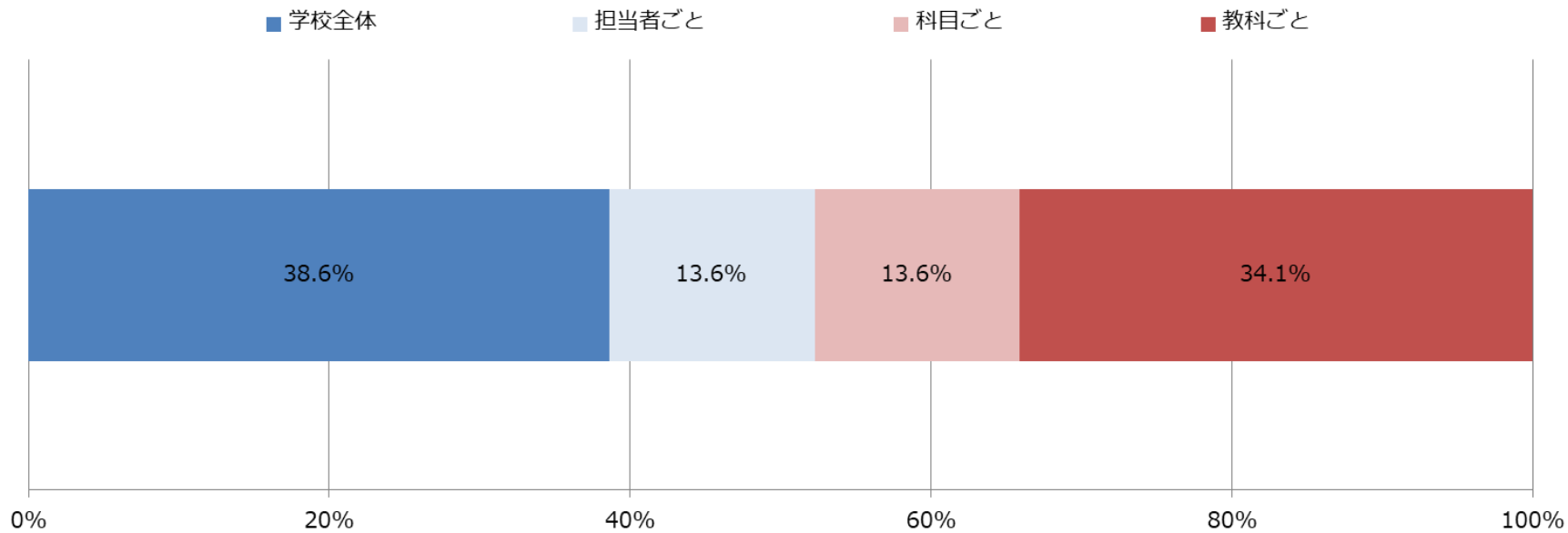
・ 形成的評価と総括的評価、そして評定をどのように捉えていくかが課題と言える

Q7 観点別評価の重みづけについて：観点別評価をもとに評価をつける時、観点別に重みづけをしていますか（複数回答可）



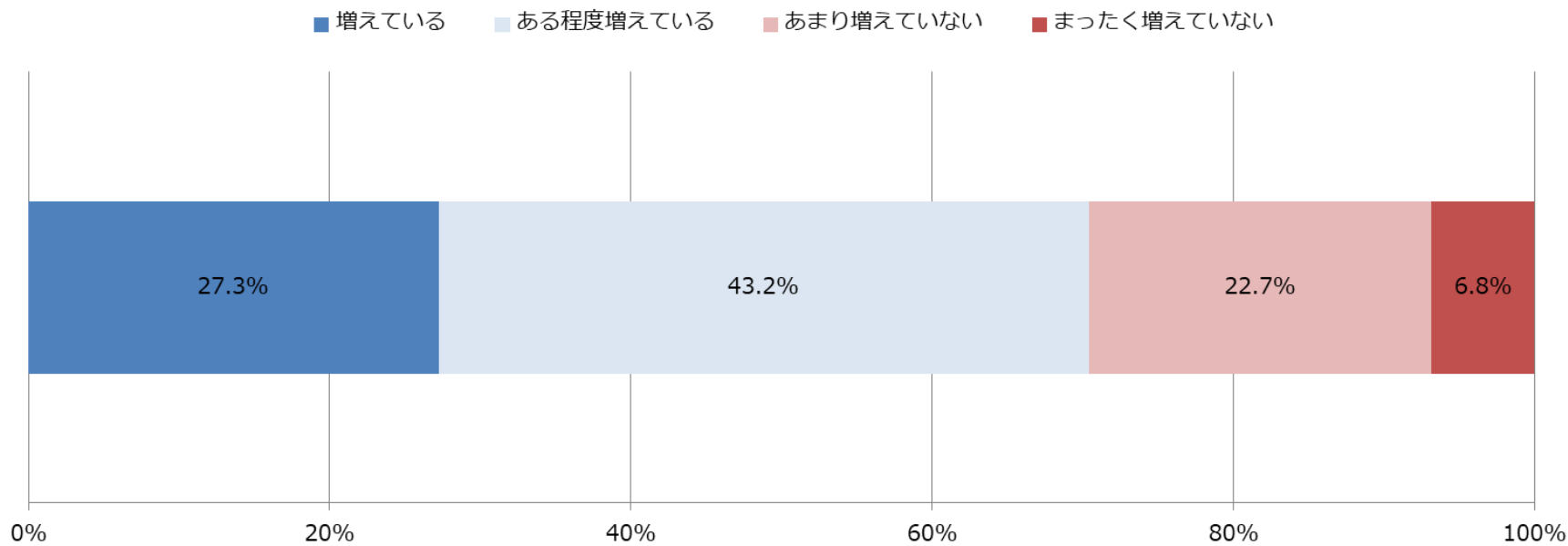
- ・「観点別評価の重みづけ」については、「教科ごと」が4割で最も多く、「学校全体」「科目ごと」の回答が続いた
- ・教科のみならず科目にも、それぞれの特性があるが、現状は教科ごとでの重みづけのほうが主流となっている

Q8 観点別評価の重みづけについて：観点別評価をもとに評価をつける時の換算の基準はどの単位で決めていますか



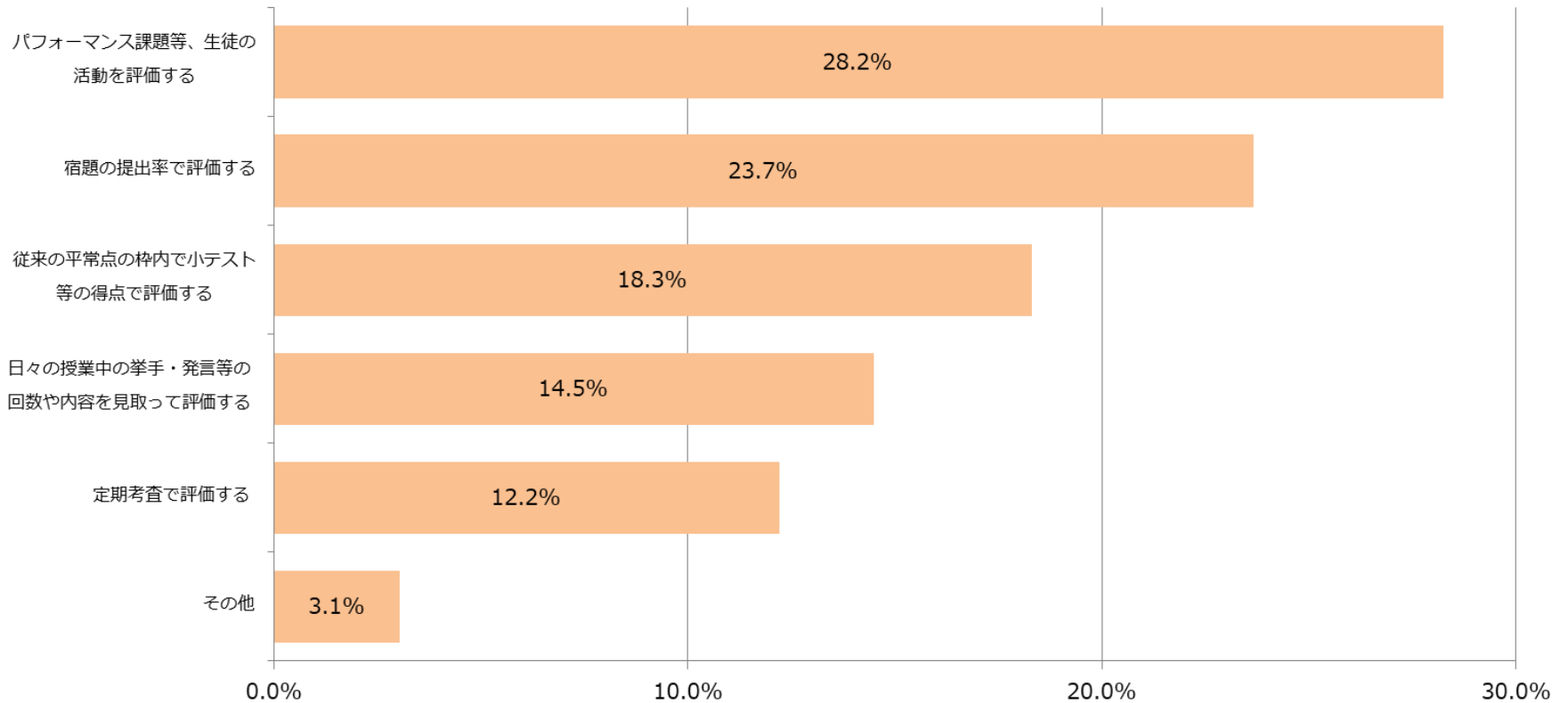
・「観点別評価の評定換算」については、「学校全体」で決めている、「教科ごとに決めている」の順で回答が多く、あわせて7割ほどとなった

Q9 指導と評価の一体化について：観点別評価を実施することにより、教科内で指導方法等について話し合う機会が増えていますか



- ・観点別評価導入後の教科内での指導法などを話し合う機会については、「ある程度増えている」「増えている」の順で回答が多く、あわせて7割ほどとなった
- ・新しい取り組みであるため、必然的に対話の機会が増えているという様子が見えてくる

Q10 主体的学びに向かう態度の評価について： 主体的に学びに向かう態度はどのように評価をしていますか（複数回答可）



・パフォーマンス課題での評価という回答も見られたが、小テストや宿題の提出率など、従来の平常点に近い方法も依然として取られている

その他の回答

- ・観点別評価のための課題
- ・リフレクションシートの提出と評価
- ・ノート提出（主体的な課題提出）などを評価する
- ・教科ごとに検討して方法を決定する。

まとめー 1

- ・2022年度より、高校でも実施がスタートしている観点別学習状況の評価は、依然として各校とも手探りの状態で実施している様子が垣間見えた
- ・多くの場合、特に課題として挙げられるのは「主体的に学びに向かう態度の評価方法」と「総括的評価の実施方法」である
- ・「主体的に学びに向かう態度の評価」は「思考力・判断力・表現力の評価」と併せて、従来通りの定期考査等のみでは評価がしづらい部分でもあり、各校独自の評価方法を引き続き模索していく必要があるだろう
- ・その際重要になるのは、「主体的に学びに向かう態度」や「思考力・判断力・表現力」を測定できるような課題を設計していくということになるだろう
- ・評価方法の精度を徐々に上げていくにしても、重要になるのは評価方法と並行して、どのような課題を課すか、その課題に向けた授業をどのようにデザインするか、ということになるのではないだろうか

まとめー 2

・それが「指導と評価の一体化」ということであり、本質は評価の手法を変えるということに留まらず、授業の質をより良いものにしていくことで、生徒たちに豊かな学習環境を提供していくということになるだろう

・そのように考えれば、全ての単元や内容のまとめりごとに評価規準を設けることは難しくても、各単元・内容ごとに特に重点化すべきことは何なのか、ということを担当する教員間でも共通理解を持ち、また生徒たちにもそれを目標として示す必要がある

・観点別評価は、指導する側の改善サイクルを回していくということだけではなく、学習する生徒たち自身が学習サイクルを改善することも意識した取り組みであることを特に意識したい

・大きな負担感をともなう取り組みではあるものの、本質に照らして授業改善を進めることができれば、自校の教育力を向上させるきっかけにもなるだろう